

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和3年 3月12日（金）

2 確認箇所

- ・ G1タンクエリア
- ・ 物揚場山側

3 確認項目

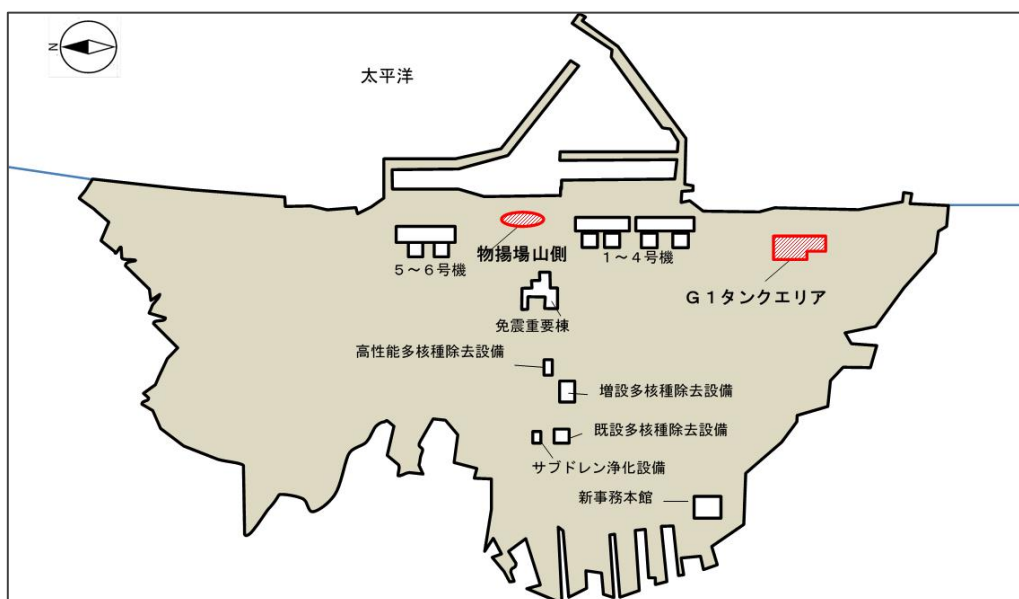
- (1) G1タンクエリアにおける溶接型タンク設置工事の進捗状況
- (2) 物揚場排水路における簡易放射線検知器「高警報」発生事象の対応状況

4 確認結果の概要

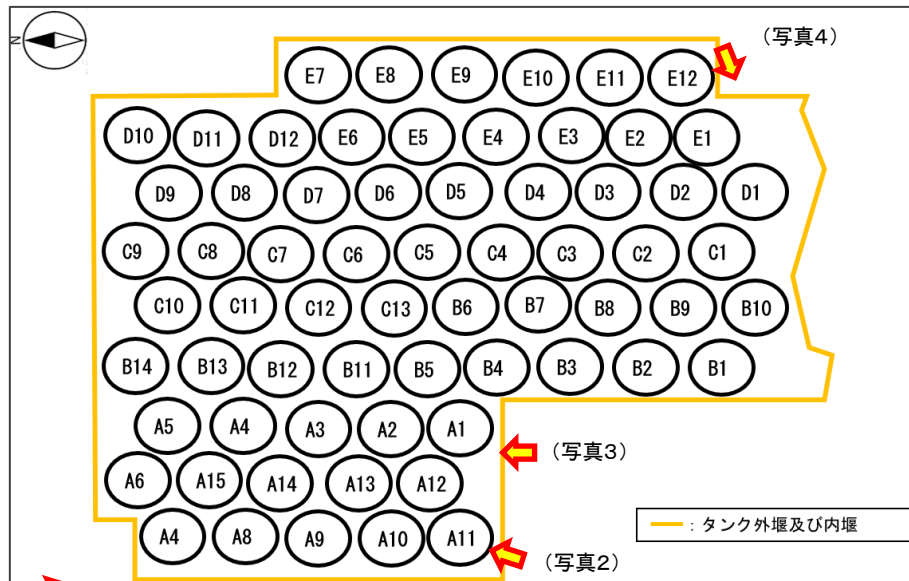
- (1) G1タンクエリアにおける溶接型タンク設置工事の進捗状況

平成31年4月から工事が着手されたG1タンクエリア（図1、図2）における溶接型タンク設置工事の進捗状況を確認した。（前回確認：[平成31年3月11日](#)）

- ・ G1タンクエリアには、66基の溶接型タンクが設置される計画であり、現地確認時には全てのタンクの設置が完了していた。（写真1）
- ・ 堰についてはエリア全周に渡り内堰・外堰が据え付けられていた。塗装については未完了であった（写真2）
- ・ 雨除けカバーは設置途中であった。（写真3）
- ・ 処理済水移送配管が設置されていた。（写真4）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)

(図2) G1タンクエリア配置図



(写真1)

G1タンクエリア全景



(写真2)

タンクエリアの堰の塗装状況



(写真3)
雨除けカバーの設置状況



(写真4)
処理済水移送配管の設置状況

(2) 物揚場排水路における簡易放射線検知器「高警報」発生事象の対応状況

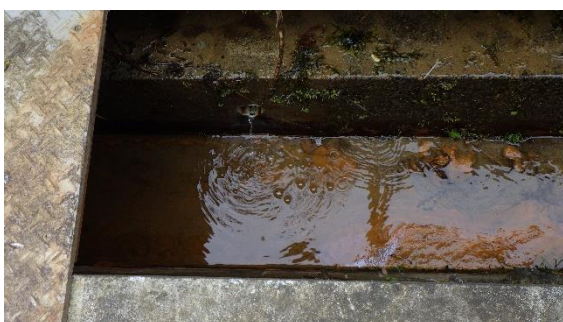
3月2日18時18分に物揚場排水路に設置されている簡易放射線検知器（以下、「PSFモニタ」という。）において「高警報」が発生した。（前回確認：3月4日、3月9日、3月10日）

東京電力によれば本事象は東日本大震災に伴う事故時のフォールアウト起因とのことであり、フェーシングされていない箇所から地下に浸透し地下水とともにストロンチウム90が流出したとのことから、物揚場上流の状況を確認した。

- ・フェーシングが実施されていない箇所には雨水が溜まっていた。（写真5）
- ・また、法面からは地下水が排水されており、近傍の側溝に流れ込んでいた。（写真6）
- ・現場地表付近の空間放射線量は約10～60 μ Sv/hであり、急激に線量率が上昇するような地点は確認出来なかった。
- ・現場では東京電力の社員による汚染源の調査が行われていた。（写真7）



(写真5)
フェーシングされていない箇所
の様子



(写真6)
法面から流れる地下水が側溝へ
排水されていた



(写真7)
東京電力社員による汚染源調査
の様子

- 5 プラント関連パラメータ確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。